



## 高齢者の事故を防ぐために

都城市高齢者クラブ連合会主催の高齢者交通安全ゲートボール大会が5月16日、都城運動公園陸上競技場で開催されました。高齢者の交通事故防止を目的とした本大会。競技場前に設置された模擬横断歩道を最上（かみうよしたか）高年齢者の蒲生義孝さん（上水流町）ら約80人のクラブ会員が、手を上げて左右を確認し、ゆつくりと安全に横断しました。都城警察署の甲斐義勝交通官は「事故の半数は高齢者が関わっている状況なので、自動車に乗る際や道路を横断する際には周りの安全を確認しましょう」と話しました。



高齢者交通安全ゲートボール大会

## 市民の競技力向上と健康増進に

5月19日、学校法人日本体育大学と本市が包括連携協定を締結しました。本市が目指す「スポーツの競技力向上」や「市民の健康増進」などに、日本体育大学が持つ人材や知識、ネットワークなどを活用できるようになる本協定。レスリングで活躍した同大学の松浪健四郎理事長は「これから、健康を国民一人一人が自身で管理する時代。子どもだけでなく、高齢者や障がいのある人など、多くの市民の皆さんの健康づくりや、競技力の向上などに貢献していきたい」と力を込めていました。



日本体育大学との包括連携協定締結

## 森林づくりに汗を流す

住友ゴム工業㈱の「GENKIの森」とMRT宮崎放送の「ミーモの森」の合同草刈りが5月20日、関之尾町のくまそ広場周辺で行われました。両社の社員や家族、約200人が参加したこの取り組みは、県の「企業による森林づくり事業」に参加した両社の森が隣接していたことがきっかけで始まりました。住友ゴム工業㈱石田博一宮崎工場長が、平成29年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞受賞を報告すると、参加者から喜びの声と拍手が上がりました。植林や保全活動の話に花が咲きました。



企業の森林づくり合同環境整備活動

## 早期全線開通に向けて機運高める

整備が進む地域高規格道路「都城志布志道路」の整備促進大会が5月20日、志布志市文化会館で開催されました。早期全線開通に向け機運を盛り上げようと、宮崎・鹿児島両県の関係者ら約千人が参加。講演や地元企業の代表者による意見発表などを通して、都城志布志道路に期待される機能や効果などを学び、整備の重要性を確認しました。大会の最後には、建設促進協議会の会長でもある池田市長の号令のもと、出席者全員が早期全線開通に向けて拳を高く振り上げ、気持ちを一つにしています。



都城志布志道路整備促進大会

## ウイルスから家畜を守るために

口蹄疫や鳥インフルエンザの流行など、万が一の状況に備える家畜防疫研修会が5月24日、中央公民館で行われました。防疫作業に従事する市職員ら約120人が参加。平成22年に発生した口蹄疫の記録映像などで防疫作業を学んだり、防護服の着脱方法の実演を見たりしながら、手順を一つ一つ確認しました。都城家畜保健衛生所の山下裕之主任は「疫病が発生した場合、迅速で的確な初動対応を取ることが速く終息させることができる。この演習の機会を大切にしてほしい」と心構えを話していました。



家畜防疫研修会



## 歯と口の健康の大切さを学ぶ

歯と口の健康について理解を深める「お口の健康フェスティバル」が6月3日と4日、ウエルネス交流プラザで行われました。歯と口の健康週間に合わせて毎年開催されるこのイベントに、多くの家族連れが来場。歯科医師による無料検診や歯科医師・衛生士体験などに加え、都城歯科医師会創立70周年を記念した、歯科医師会の歩みなどを写真で紹介するコーナーも設けられました。都城歯科医師会の田口健会長は「これから、歯と口の健康の大切さを伝えていきたい」と話していました。



お口の健康フェスティバル

## 災害への対応力を高める

梅雨入りが間近に迫った6月4日、市役所で風水害対策図上訓練が行われました。市職員のほか、国や県など関係機関の職員ら80人が参加。それぞれの部署で作成している災害対策行動マニュアルを持ち寄り、問題点や改善点などを確認しながら、情報の伝達や整理、分析など本番さながらの訓練に取り組んでいました。危機管理課の下沖康太郎主査は「実際の災害では、さまざまな問題に直面することができることを訓練で増やしながら、災害への対応力を高めたい」と気持ちを引き締めていました。



風水害対策図上訓練

## どろんこまみれでハッスル

地域活性化と五穀豊穡を祈願する高崎町どろんこバレーボール祭が6月11日、高崎小学校南側の水田で開催されました。市内外から54チーム、346人が参加。趣向を凝らしたそろいのユニホームを身にまとった選手らが、泥だらけになりながらプレーする姿に、観客からは大きな笑い声と歓声が沸き起こっていました。昨年が続いて参加した大塚昭一さん（乙房町）は「泥に足をとられて大変だったが、普段はできない貴重な体験を、仲間と楽しむことができた」と満面の笑みを浮かべていました。



高崎町どろんこバレーボール祭

## 交通安全のリーダーに任命

市内の4つの小学校の4年生から6年生13人が参加する交通安全団の結団式が6月11日、コミュニティセンターで開催されました。都城市交通安全都市推進協議会が各団員に任命書を交付。式の終了後に行われた研修会では、交通安全指導員から自転車に乗るときのルールの説明を受けました。誓いの言葉を読み上げた森山栞名さん（川東小6年）は「パトカーでの広報活動が楽しみ。交通安全団員として交通ルールをしっかり守りながら、友達にも教えていきたい」と意気込みを話していました。



交通安全団結団式

## 父の日を前に

6月14日、池田市長へ都城地域酪農青壮年部連絡協議会による牛乳贈呈と、都城市花き振興会による花束贈呈が行われました。会員からは、農業に対する思いや、やりがいなどの感想が寄せられました。



「父の日」牛乳贈呈



「父の日」花き贈呈

# 人 有蘭

smiling faces of miyakonojo



## 部隊格闘指導官 有蘭 礼奈さん

—プロフィール—

陸上自衛隊都城駐屯地  
第43普通科連隊所属

今年3月に、九州の女性自衛官としては初となる部隊格闘指導官に合格したのが、有蘭礼奈さんです。部隊格闘指導官は、自衛隊の任務を遂行するために必要とされる格闘術を隊員に教える指導者のことで、有蘭さんは九州管内で勤務する約1,800人の女性自衛官でただ1人の指導官です。

鹿児島県霧島市で生まれ育った有蘭さん。小学1年生から、陸上自衛隊国分駐屯地で空手を習い始めました。「そして、友人の父親が自衛官であったり、市内で開催される自衛隊のイベントなどに参加したりするなど」、小さな頃から

身近な存在として自衛隊があったことから、自然と自衛官を志すようになりました。

「自衛官は、体を動かすことが好きな自分に向いている仕事」と話す有蘭さん。高校卒業後すぐに入隊し、都城駐屯地に配属になって今年で7年目を迎えます。現在は、隊員を支援する衛生小隊に所属。訓練だけがをした隊員の手下でや、災害派遣などに備えて医療用の資材を管理する業務に携わっています。「言葉遣いや気配りなど、女性らしさを忘れないように心掛けています」と豊かな感性を仕事に生かします。

2年ほど前に、東京都で実施された訓練で、女性指導官が自分よりも体の大きい男性を投げつける姿を見て、指導官に強く憧れを持つようになった有蘭さん。このことがきっかけとなり、毎日の仕事に励む一方で、格闘術の自主練習にも汗を流すようになりました。

約1年かけて準備をして、2月上旬に国分駐屯地で実施された教育プログラムの初挑戦。学科や格闘術の指導法のほか、投げ技や関節技などの基本技術、ナイフや銃を持った相手に対応する応用技術などを学び、見事試験に合格しました。合格を喜びながらも「指導

してくれた教官や先輩たちのおかげ」と周りの人への感謝の気持ちも忘れません。

指導する立場となった現在は「常に相手を意識するように指導して、訓練のための訓練にならないように心掛けている」と話す有蘭さん。「女性自衛官も増えてきている中、格闘術が苦手な人も少なくない。女性でも使える関節技など、格闘術の魅力や知識をうまく伝えていきたい」と指導官としての意気込みを話しながらも「上級格闘指導官を目指して、技術と知識を高めていきたい」と技術向上にも意欲を見せていました。

格闘術の魅力や知識を伝える  
九州初の女性格闘指導官

